

事業評価書（事前）

事務事業名	肝炎等克服緊急対策研究経費（仮称）	
事務事業の概要	(1)目的	<p>肝炎等</p> <p>ウイルス性肝炎等に関して、病態・持続感染機構の解明、C型慢性肝炎の治療法の開発、肝硬変の予防及び治療法の開発、肝がんの発生・進展の分子メカニズム及び早期診断法の開発、肝炎対策としての肝移植対策、蔓延状況・長期予後の疫学、等の分野について、基礎から臨床、予防まで分野横断的な研究を実施し、慢性肝炎、肝硬変及び肝がん等の予防法、治療法等を開発する。</p> <p>狂牛病</p> <p>科学技術の振興（ライフサイエンス分野）の趣旨を踏まえ、本研究は狂牛病の我が国における発生の可能性の評価、病因とされるタンパク質の感染メカニズムの解明及び新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の予防方策等の高度化を目的とし研究を推進する。</p>
	(2)内容	<p>肝炎等</p> <p>C型肝炎ウイルスは、我が国に約100～200万人の持続感染者（キャリア）が存在すると推定されており、これらは、加齢に伴って肝硬変・肝がんに移行する可能性が高い。我が国の肝がんによる死亡者数は年々増加している。これは、過去にC型肝炎ウイルスに感染した者が、がんの好発年齢に達してきたためと指摘されており、これらへの対応は、国民の健康問題として大きな課題の一つとなっている。</p> <p>この肝炎ウイルス感染及び関係する疾患の病態解明、予防及び治療については、近年、急速に科学的知見が集積されつつあり、今後5年間で重点的、集中的に研究を推進することによって、21世紀の国民病といわれるウイルス性肝炎、肝硬変、肝がん等の肝疾患による死亡率を低下させるとともに、これらの患者等のQOLの向上を図る。</p> <p>狂牛病</p> <p>狂牛病（牛海綿状脳症）の人への感染性については、科学的に未確認の部分はあるものの、新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病（痴呆症の一種）の原因とされていることから、狂牛病の我が国における疫学的検討、病因とされるタンパク質（異常プリオン）についてのより精度の高い検査法の確立、感染メカニズムの解明及び不活化・除去手法の開発等に関する研究について重点的に推進する。</p>
	(3)達成目標	予算額（案）
	<p>肝炎等</p> <p>これまでの先行研究によると、C型肝炎ウイルスの特徴は、肝臓にのみ感染し、症状が出ないまま感染状態が持続し（キャリア）、長い経過で慢性肝炎から、肝硬変・肝がんへと移行する可能性が高い。</p> <p>本研究においては、</p> <p>ア．C型肝炎ウイルスの肝細胞への持続感染のメカニズムを明らかにすることにより、キャリアから肝硬変、肝がんへの移行を抑制すること、</p> <p>イ．C型肝炎ウイルスに対して抗ウイルス剤として現在一般的に使用されているインターフェロンによる治療法を改善、標準化し、治癒率を30%から50%に向上すること、等を主な目標としている。</p> <p>狂牛病</p> <p>牛プリオントランスジェニックマウスの開発により、狂牛病のヒトへの感染性及び異常プリオンの不活化の研究を進め、平成18年を目処に、食品、医薬品等の異常プリオン汚染評価方法を確立する。</p> <p>また、狂牛病の診断検査技術を開発し、牛に由来する危険部位の分離・廃棄方法を開発するとともに、疫学研究によりわが国における狂牛病の発生リスクを評価する。</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">評価</p>	<p>(1)必要性</p>	<p>〔国民や社会のニーズに照らした妥当性、公益性、官民の役割分担、緊要性の有無〕</p> <p>肝炎等 C型肝炎ウイルスの持続感染者（キャリア）は、推定約100～200万人存在するといわれ、感染者の加齢に伴って、感染後数年～数十年後に慢性肝炎から肝硬変、肝がんへと移行する可能性が高い。年間4万5千人も死亡する肝がんの9割以上がB型、C型肝炎ウイルスの感染者で、その中の8割以上はC型肝炎ウイルス感染者であるので、肝硬変、肝がんによる死亡防止対策としてのウイルス性肝炎キャリアへの対応法、肝硬変、肝がんの予防法及び治療法の開発への期待は高い。したがって、国として積極的に推進すべき分野である。</p> <p>厚生労働省においては、平成12年度に「肝炎対策に関する有識者会議」を設置し、我が国における肝炎対策の問題点を整理し、その中で、早期の診断法、C型肝炎ウイルスに対する抗体の開発等の予防法、効果的治療法の開発の推進が必要と指摘されている。</p> <p>狂牛病 狂牛病については、食肉等の安全性の確保の観点から各国政府が対策を講じている。また、全世界的に拡大する可能性が指摘されており、我が国における狂牛病対策の基礎となる研究の推進は喫緊の課題であり、国として積極的に推進すべき分野である。</p> <p>なお、総合科学技術会議においても、本分野を取り上げる必要性が議論されている。</p> <p>また、産業構造改革・雇用対策本部「中間とりまとめ」の「戦略基盤・融合技術分野への重点投入（産官学総力戦）」に該当する。</p>
	<p>(2)有効性</p>	<p>〔これまで達成された効果、今後見込まれる効果、効果の発現が見込まれる時期〕</p> <p>肝炎等 我が国は、特にC型肝炎ウイルスの感染者が、世界に先駆けてがん年齢に達しているとともに、B型肝炎ウイルス等の研究基盤があり、基礎、臨床、予防の各分野にわたる研究者が揃い、世界の肝炎研究の最先端を担ってきている。</p> <p>本研究により、5年間で急速な知見の集積が図られ、予防法及び治療法の開発等、国際的にも先駆的な成果が期待されるとともに、この分野の研究者間の学際的な連携の促進による研究全体の効率化も期待できる。</p> <p>また、働き盛りに多い慢性肝炎、肝硬変、肝がんの患者に対して適切な保健医療サービスが提供できることにより、治療等に係る労働損失日数が大幅に減少するとともに、早期治療や軽症化により医療費の軽減が期待され、他分野における消費の増大が期待される。</p> <p>狂牛病 新変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の発生防止を図ることにより、医療費の抑制効果及び科学的調査に基づく情報提供による牛肉や医薬品等の安全確保、安全消費等が期待できる。本研究により、平成18年を目処に、食品、医薬品等の異常プリオン汚染評価方法を確立することを目指している。</p> <p>また、新たな検査法を開発することにより、分析機器及び検査キット等に関する新市場及び新産業の創出が期待できる。</p>
	<p>(3)効率性</p>	<p>〔手段の適正性〕</p> <p>肝炎等 我が国は、特にC型肝炎ウイルスの感染者が、世界に先駆けてがん年齢に達しているとともに、これまでのB型肝炎ウイルス等の研究基盤があり、基礎、臨床、予防の各分野の研究者が揃い、世界の肝炎研究の最先端を担ってきている。今後5年間で急速な知見が集積され、予防法及び治療法の開発等、国際的にも先駆的な成果が期待されるとともに、この分野の研究者の学</p>

	<p>際的な連携の促進による研究全体の効率化を図ることができる。</p> <p>狂牛病 初年度から2年をめどにトランスジェニックマウスの開発等基礎的研究を進め、その後異常プリオンの不活化、除去技術等社会・産業へ還元する技術開発、データ評価を行う、というように計画的に研究を推進することにより、効率的な実施が可能となる。</p>
<p>(4)その他 (公平性・優先性 など)</p>	
<p>関連事務事業</p>	
<p>特記事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済財政諮問会議「今後の経済財政運営及び経済社会の構造改革に関する基本方針」(平成13年6月26日閣議決定) ・ 総合科学技術会議 重点分野推進戦略専門調査会「ライフサイエンス分野推進戦略」(平成13年8月30日)等 ・ 産業構造改革・雇用対策本部「中間とりまとめ」(平成13年6月26日決定) ・ 厚生労働省「肝炎対策に関する有識者会議」報告(平成13年3月30日)
<p>主管課 及び関係課</p>	<p>(主管課)大臣官房厚生科学課</p>